

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年4月3日

事業所名 オリブまなびの家

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	児発と放デイで部屋を分け、発達年齢に応じた環境設定をしている。	今年度、環境設定を大きく見直し、療育の環境を整えた。今後も適宜行っていく。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	1対1もしくは2対1で対応している。	発達に応じて、複数と個別を組み合わせ療育を行っていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	荷物入れ等はイラストを用いながら構造化している。階段に手すりや滑り止めパットを敷き、転倒防止の対応している。	玄関の高さが高く、くつの脱ぎ履きがしにくそうというご意見を頂いたので、お子さまの身長に合わせて、すのこ等で高さを調整する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	毎日除菌・清掃を実施し、プログラムに合わせて机等の配置を変更している。	療育の教具や、玩具の配置等の構造化を考えていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%	新人職員の目標設定と振り返りを管理者と一緒にしながら、意見を聞ける場を設けている。	非常勤職員が参画できるように、考えていく。また今後法人全体での共有を行っていく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	昨年度の評価表より、部屋の構造化など改善させていただいた。	今後もご意見を踏まえ、職員で話し合いながら改善していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	HPIにて公開している。	今後も行っていく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	第三者評価は実施しておりません。保護者様の評価・ご意見から業務改善に努めています。	第三者評価は実施しておりません。保護者様の評価・ご意見から業務改善に努めています。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に研修を実施している。	来年度も資質向上の為、年間の研修計画を基に、非常勤職員も含め研修に参加できるように努めます。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	80%	20%	児童に合わせてプログラムを計画し、実施している。	アセスメントツールをもっと活用し、ニーズ整理を行い計画に活かせるようにします。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60%	40%	JSI-R等のアセスメントツールを使用している。	JSI-R等のアセスメントツールを使用しているが、全ての職員が認知できていないようなので、周知を図ります。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	ガイドラインを全職員に配布し、研修等を通し内容の確認をしている。	今後も外部研修等に参加しながら、内容の質を向上していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	職員間で共通意識をもって支援できるように、申し送りや引継ぎシートを活用している。	今後もしっかり引継ぎシートを活用しながら、発達の状況を確認していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	児童の様子を共有し、職員間でプログラムを立案している。	全職員でお子さまの発達の状況を共有しながら、立案していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	児童のニーズに合わせてプログラム変更をしている。また季節に関連したプログラムを実施している。	今後、保護者の方に療育参観して頂ける機会を設けていきたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	100%	0%	土曜日に「コミュトレ(コミュニケーショントレーニング)」を実施し、小集団での活動を取り入れている。	個別での療育が小集団で汎化できるように工夫していきます。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼時に当日の流れや担当を確認している。また非常勤職員にも、出勤時に常勤職員が細かく申し送りを行っている。	今後も継続して行っていく。また引継ぎシートの書き方を工夫し、口頭での引継ぎが少なくできるように考えていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	引継ぎシートを使用しながら児童の様子を振り返り、翌日の朝礼で職員に周知している。	朝の申し送りで、もれなく共有できるように、申し送りの構成を考えていく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	連絡帳の記録と引継ぎシートへ支援内容を記載している。	支援の検証がもう少し細かに行えるように、会議の開催を考えていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的にプログラムの振り返りと見直しを行っている。	お子さまの発達の速度に合わせて見直し時期を考えていく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管が参加している。	今後も児発管が参画していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	60%	40%	児童発達支援センターの先生や子育て支援センターの先生方と利用児の情報を共有させて頂いている。また地域子育てセンターに、子育て世帯に向けてのイベント開催のお知らせを置いていただいたり、児童発達支援施設の地域資源としての役割を果たせるように努めている。	今後も地域資源の提言が行えるように、関係機関と連携を図っていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	0%	該当する児童はいません	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	0%	該当する児童はいません	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	80%	20%	幼稚園など送迎時に、園での生活、様子などを聞いている。受け入れ前にお子さまの通園されている施設に見学や、保育士さんに引継ぎを申し入れし、実施している	現在通園施設のみ引継ぎや連携を図れている状況なので、今後こども園や保育園とも連携や相互理解を図っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0%	0%	まだ該当児童がいない。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の連携	27	40%	0%	適時、高石市の機関の研修を受けている。専門機関の外部研修を利用している。	今後も、外部の専門機関と連携し研修等を行っていく。
	28	60%	40%	夕涼み会などの行事で交流の機会を設けている。	地域の方に参加して頂ける行事を考え、交流できる機会を増やしていく。
	29	100%	0%	参加している。	自立支援協議会の委員として法人代表が今後も参加していく。
	30	100%	0%	お迎え時やLINE・連絡帳等で気になることや様子などを伝えている。	必要に応じて、相談や家庭訪問で相談ができる事を保護者の方に適宜伝えていく。
	31	60%	40%	ペアトレは行っていないが、家庭訪問を実施し、お困りごとに対して助言させていただいている。	今後保護者向けの研修会等を実施していく
保護者への説明責任等	32	100%	0%	行っている。	契約時に今後も行っていく。また必要に応じて、適宜説明を行う。
	33	100%	0%	行っている。	今後も継続して行っていく。
	34	100%	0%	相談事については、職員間で共有し、保護者に助言させていただいている。	今後も継続して行っていく。
	35	80%	20%	保護者参加の行事等を行い保護者同士を結び付けられるような機会を設けている。連携支援まではできていない。	保護者会を定期的で開催していく
	36	100%	0%	契約時に体制等は保護者に周知している。保護者からの申し入れについては、朝礼で全職員に周知できるように整備している。	細かなご意見も苦情として捉え、管理者で止めるのではなく、直接支援の職員と共通認識できるようなスキーム作りを行なっていく。 ・法人全体での共有も行っていく。
	37	60%	0%	毎月イベント等の行事に関するお知らせや、事業所内の情報はHPやお便りを発行している。	今後も継続して行っていく。
	38	100%	0%	・児童の名前や個人情報が書かれたものは全てシュレッダーし、外部に漏れないよう細心の注意を払っている。 ・個人情報の取り扱いについては職員全体に周知をしている。	・適宜注意喚起を行っていく。 ・新人職員には入職してすぐに、個人情報の取り扱い、秘密の保持について研修を行っていく。
	39	60%	0%	・連絡帳等で情報交換している。 ・絵カードをや口頭など個々の発達状況に合わせて対応している。Instagramで写真や動画を用いて活動内容を報告させていただいている。また必要に応じて適宜手紙を配布している。	・今後も個々の発達状況に応じて情報伝達の配慮を行う。 ・保護者様にはSNSも活用しながら情報伝達を行なっていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	夏休み期間中に夕涼み会を実施し、地域の方にも参加していただけるような場を作っている。	今後も地域の方に参加して頂ける行事を考え、交流できる機会を増やしていく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	80%	20%	マニュアルを策定し、職員間で共有しているが、保護者向けの感染症等のマニュアルは今後配布予定。	お子さまと一緒に訓練を行えるように考えていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	非常備品は定期的にチェックし、市の避難訓練に参加し、避難経路を確認している。	お子さまと一緒に訓練を行えるように考えていく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	利用前に利用者情報を提供していただいている。	アセスメントや毎年更新するフェイスシートで今後も確認します。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	利用前にアレルギーの有無を教えていただいている。	アセスメントや毎年更新するフェイスシートで今後も確認します。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	朝礼時に職員間で共有し、再発防止の対策を周知している。	法人内でも情報を共有していく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	定期的に研修を実施している。	今後も全職員が人権擁護研修を受けれるように、YouTube配信も活用していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	60%	40%	現在身体拘束が必要なお子さまはいません	現在身体拘束が必要なお子さまはいませんが、今後必要になった場合の為に組織内で話し合っておく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。